

研究大会

会場

, 名古屋大学博物館 (2/10) 名古屋大学野依記念学術交流館 (2/11-12)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町



日時

2017年

2月10日 (金) 13:00~14:30 ▶一般講演会

2月11日(土) 10:30~17:45

▶国際ワークショップ International workshop

2月12日(日)10:00~16:45

▶2016年度の成果発表

詳しくはホームページで http://paleoasia.jp/

定員 70名 (2/10) 150名 (2/11-12) 申込不要 参加無料

2月10日(金)13:00~14:30

一般講演会(通訳あり)

ドナルド・ヘンリー(タルサ大学人類学科・名誉教授)

^rRethinking Neanderthals

ネアンデルタールとはどのような人々か?その再考に迫る考古学研究」

2月11日(土) 10:30~17:45 会場:名古屋大学野依記念学術交流館

国際ワークショップ(英語のみ)International workshop

『西アジアにおけるヒトと文化の交替劇 ― パレオアジアからの展望』

Biological and cultural transitions in the Middle and Upper Palaeolithic in West Asia: Perspectives from PaleoAsia

- 1 趣旨説明 西秋良宏 (東京大学・教授)
- (2) 招待講演 ドナルド・ヘンリー Donald O. Henry (タルサ大学人類学科・名誉教授)
 「Neanderthals in the Levant: intra-site, inter-site and regional analyses」

パベル・タラソフ Pavel E. Tarasov (ベルリン自由大学地球科学科・教授)

「Late Quaternary vegetation and climate variability derived from sedimentary archives stored in Eurasian lakes: case studies, achievements and challenges」

ミリアム・ベルメイカー Miriam Belmaker (タルサ大学人類学科・助教授)

Reevaluation of mammal community structure throughout the Last Glacial: implication for Neanderthal and anatomically modern human population dynamics in the Southern Levant

(3) パレオアジア・プロジェクトメンバーによる発表

2月12日(日)10:00~16:45 会場:名古屋大学野依記念学術交流館

パレオアジア・プロジェクト2016年の成果発表

計画研究班講演

A01 アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築

A02 ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明

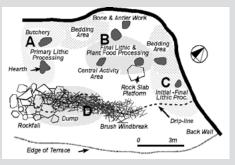
A03 アジアにおけるホモ・サピエンス定着期の気候変動と居住環境の解明

B01 人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築

B02 人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の現象数理学的モデル構築







会場:名古屋大学博物館